

# 近年の自然災害に伴う送配電設備の 被害状況について

令和元年11月5日  
経 済 産 業 省  
産業保安グループ

# 近年の台風・豪雨災害による送配電設備の被害状況

- 近年、台風・豪雨災害により一般送配電事業者の送配電設備に大きな被害が続発。

## ＜近年の台風・豪雨災害による送配電設備への被害＞

年	自然災害名 (主に被災した電力会社)	最大停電戸数	被害状況※ ※電柱100本以上被害
2015年	台風15号 (九州電力)	約48万戸	電柱444本
2016年	台風10号 (東北電力)	約5.5万戸	電柱671本
	台風16号 (九州電力)	約25万戸	電柱284本
2017年	台風21号 (関西電力・四国電力)	約29万戸	電柱187本(関西電力) 電柱206本(四国電力)
2018年	西日本豪雨 (中国電力・四国電力)	約7.5万戸	電柱848本(中国) 電柱443本(四国)
	台風21号 (関西電力・中部電力)	約240万戸	電柱1,343本(関西) 電柱287本(中部)
	台風24号 (中部電力・九州電力)	約180万戸	電柱206本(中部) 電柱368本(九州)
2019年	台風15号 (東京電力PG)	約93万戸	鉄塔2基 電柱1,996本
	台風19号 (東京電力PG・中部電力・東北電力)	約52万戸	電柱135本(東京) 電柱344本(中部) 電柱763本(東北)

(資料) 経済産業省(各産業保安監督部)調べ

# 平成30年西日本豪雨による送配電設備への被害状況

- 大雨・土砂崩れが同時多発的に発生し、電柱倒壊等の被害状況の把握が困難であったことから、中国監督部では迅速な情報収集を指導。
- 被災後、中国電力では現場で得られた設備の被害情報等をタイムリーに共有するための新たなITツールを導入するなどした。

<中国産業保安監督部による調査の様相>



# 平成30年台風21号による送配電設備への被害状況

- 倒木等により、多数の電柱の倒壊が発生したことから、近畿産業保安監督部では被害状況を調査し、停電復旧作業を円滑化するため、自治体との災害対応に係る連携強化を指導。
- その結果、特に倒木による被害が大きかった和歌山県と関西電力との間で、災害時の停電復旧作業に支障となる樹木等の除去作業に関する協定の締結に至る。

## <近畿産業保安監督部による調査の様相>



# 平成30年台風24号による送配電設備への被害状況

- 市街地を中心に、飛来物等により多くの電柱の倒壊が発生したため、中部産業保安監督部では被害状況を調査し、事故を未然に防ぐための情報発信を指導。
- 被災後、中部電力はTwitterやチラシを活用し、飛来物対策のPRを実施。

<中部産業保安監督部による調査の様相>



<Twitter投稿例（台風接近中の注意喚起）>



【#台風24号 が接近しています。今後の動きに注意してください。】

台風が接近し強風で物が飛ばされると危険であるとともに、電線に絡み、停電になる場合があります。

雨風が強くなる前に、風で飛ばされそうなトタン・看板・ビニールシートやベランダのバケツ、物干し台の固定などをお願いいたします。

<チラシ配布例（台風接近時の注意喚起）>



# 令和元年台風15号による被害状況調査〈鉄塔〉

- 令和元年台風15号が関東地方を通過後、関東産業保安監督部において、千葉県君津市で倒壊した鉄塔の状況を確認し、電力会社に対して二次被害の防止や原因究明を指示。原因究明後、再発防止対策のフォローアップを実施予定。

## 〈関東産業保安監督部による調査の様相〉



# 令和元年台風15号による被害状況調査〈電柱〉

- 令和元年台風15号が関東地方を通過後、関東産業保安監督部において、千葉県内で倒壊した電柱の被害状況を確認。倒木による被害状況を確認し、電力会社に対して二次被害の防止を指示。原因究明後、再発防止対策のフォローアップを実施予定。

## 〈関東産業保安監督部による調査の様相〉

